



# 旧仲里間切蔵元跡石牆

指定名称 きゅうなかざと まぎりくらもとあとせきしょう  
 旧仲里間切蔵元跡石牆  
 (国指定重要文化財建造物)

員数 1棟

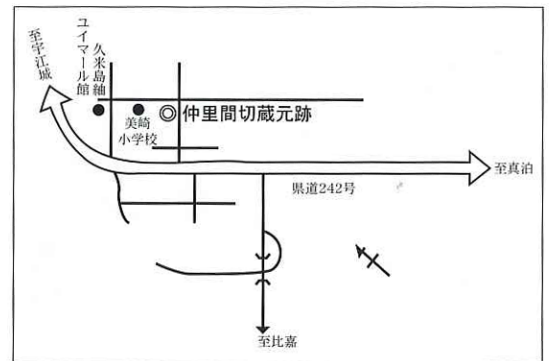
所在地 久米島町字真謝122

指定年月日 昭和47年5月15日

所有者 久米島町

蔵元跡(間切時代の役所の跡)に方形に巡らされた石垣で、乾隆28年(1763)、地頭代宇根親雲上けんりゅう うね べーちん けいじ 黎時の頃に築かれたものである。

石垣はすべて珊瑚石灰岩で、高さは平均で3m前後、厚さは下幅約1.8m、上幅が約1.2mである。南側やや中央に設けられた正門部分には、大正13年(1924)仲里村役場が比嘉に移転するまでは四脚門の屋門があったが、現在は礎石が残っているのみである。北側と西側にあるアーチ型の通用門の上部



は一段と高く積み上げられ、構造的な美しさをかもしだしている。これらの3つの門一帯は切石積みで、それ以外はいかた積みとし、石垣は四隅を隅すみ 丸まるにしているのが特徴である。